

埋文やまがた

財團法人 山形県埋蔵文化財センター広報誌



1995年3月31日
創刊号



センター近景



西ノ前遺跡出土土偶



このマークは、Yamagata Prefecture Archaeology Centerの頭文字を基にデザインしたものです。特にYは、舟形町西ノ前遺跡から出土した山形土偶（左写真）をイメージしたものです。また、カラーは命の根源である山形の自然、大地・山・河を表し、そこから培われた文化を象徴したものです。

交通案内

JR山形新幹線、奥羽本線山形駅下車 車で20分
// かみのやま温泉駅下車 車で10分
東北横断道酒田線山形蔵王ICより 車で30分



財團法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER



創刊にあたって

財團法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 木場 清耕

山形県は豊かで美しい自然と歴史的風土に恵まれ、日本最大の土偶を出土した西ノ前遺跡や、繩紋クッキーで有名な押出遺跡など、全国的に注目を受けている遺跡が数多く存在しています。

これらの遺跡は県民のかけがえのない歴史自然文化遺産であり、現代に生きる私達はこれらを大切に保護し、未来に伝えていかなければなりません。

近年、山形県でも道路建設や、ほ場整備事業、宅地造成事業など、大規模公共開発事業が増加してきており、これらの事業に伴う発掘調査も急増の傾向にあります。

このような状況から本県では文化財保護と県土発展との両立を図る適切な対処が求められ、平成5年度に財團法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。

センターでは県民の文化向上と地域文化の振興に寄与するため、埋蔵文化財についての調査・研究のほか、県民の皆様に対し、情報サービスや資料の提供などをおこないたいと考えています。その一環として、このたびセンターの広報誌「理文やまがた」を発行することとなりました。職員一同文化財に対する事業の推進と向上に努力してまいりたいと存じておりますので皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

センター設立の経緯と活動内容

山形県教育委員会における埋蔵文化財の調査は、昭和48年より県文化課で実施してまいりました。事業者による調査費用負担制度が確立した昭和54年からは「山形県埋蔵文化財緊急調査団」(団長柏倉亮吉)に調査を委託し、県文化課の職員が同調査団に兼務する形で業務をおこなってきました。

その後、国や県などの公共事業の増加とともに平成3・4年度に山形県埋蔵文化財調査体制検討委員会を設け検討した結果、平成5年度に財團法人山形県埋蔵文化財センターを設立することになったものです。

センターの組織は理事などの役員と事務局(総務課と調査研究課の二課)で構成されています。山形県における埋蔵文化財調査研究の中核として、国・県などの公共開発事業にかかる遺跡の発掘調査や研究、普及などの事業に当っています。

当センターの事務所は、上山市弁天にある旧県立上山農業高等学校の跡地を利用しています。これにより、分散していた出土文化財を一ヶ所に集めて資料の保管をはかることができるようになりました。

近年、埋蔵文化財センターの整備を進めることができ



4次山形県教育振興計画などでも提言されております。当センターとしては今後とも県民の皆様に対し、埋蔵文化財情報や資料の提供などに努めてまいります。

平成5年度埋蔵文化財センター発掘調査実績						
遺跡名	所在地	調査原因	調査期間(日数)	調査面積㎡	調査成果	
◆椎林						
宮の前道路	村山市大字富士宮の前	昭和宮は整備事業(富士地区)	5/11~9/10 (83)	4,500	绳文時代晚期の大集落跡。数百点の完全な形の土器が出土。	
升川道路	道佐町大字直井字升川	* (高齢地帯)	8/3~9/17 (27)	2,000	縄文時代の植物跡が豊富。中国式陪冢も注目される。	
木原道路	道佐町大字田中字木原、高田	(月光川下流域)	5/11~7/20 (59)	6,000	平安時代住跡跡6種検出。大規模分析による時間推定可能。	
五百石道路	鶴岡市大字下宇百石	* (下川地区)	7/26~8/25 (20)	1,000	平安時代の地層の下に、古墳時代の住跡跡を3種検出。	
松原道路	木沢市大字間根字白旗、松原	県農免道路整備事業	6/21~9/1 (24)	604	绳文時代前期の住跡跡を6種検出。	
小計				14,104		
◆畠上土						
押切道路	天童市大字高木押切	主要地方道山形天童改良工事	5/7~7/29 (59)	4,000	平安時代の住跡跡6種と住跡跡1種を検出。	
西谷地道路	鶴岡市大字下宇西谷施	主要地方道山形鶴岡改良工事	5/11~7/20 (50)	3,400	平安時代の台形土器と井干彌を検出。	
弓張山道路	西川町大字吉井字弓張ケ原	都市公園整備事業	8/2~9/8 (22)	300	石器がまとまって出土する旧石器時代のキャンプ跡。	
岡ノ台道路	白鷹町大字野寺字岡ノ台	一般国道285号道路改良工事	5/11~11/19 (67)	3,017	绳文から平安時代までの複合跡群。	
黒巻道路	白鷹町大字野寺字巻ノ内	一般国道285号道路整備事業	7/26~10/1 (41)	2,770	*古墳時代前期の方舟型溝墓を3基並んで検出。	
小計				14,687		
◆畠数委						
鬼ヶ島城跡	酒田市鬼ヶ島1丁目	私立高校校舎等整備事業(体育館)	5/11~8/4 (63)	4,080	庄内藩鬼ヶ島城の城代家老敷地跡確認。陶磁器の量も豊富。	
藤島城跡	藤島町大字古賀	*	(温泉)	8/23~10/20 (30)	1,080	藤島城本丸の土壘と削跡を検出。
小計				5,160		
◆住宅公社						
今塚道路	山形市大字今塚	宅地造成及び分譲住宅建設	5/31~11/12 (110)	14,200	古墳時代他の住跡跡27種と「壽3年(853)」の木簡発見。	
小計				14,200		
◆農水省						
飯台道路	八幡町大字下青吉字飯台	国営農地開拓事業(鳥海山麓地区)	6/7~10/14 (77)	5,000	绳文時代中期から後期の住跡跡8種検出。土偶5点出土。	
山崩河跡	平山町大字山崩	*		5/11~11/30 (114)	9,573	绳文時代の住跡跡、奈良時代の土器を検出した空跡跡。
小計				14,573		
◆建設省						
お仲井田林道	西川町大字人間字井田勘新田	上矢木系寒河江川直轄地防事業	5/12~7/29 (56)	1,080	石器時代の石器製作跡。石器と調査2万点出土。	
古坂道路	小川町大字湖本郷1字古坂	建設省補川ダム建設工事	9/13~10/5 (19)	760	绳文時代初期から前中期の住跡跡5種検出。	
小豆瀬跡	長井市平山字小豆瀬	建設省長井ダム建設付替道工事	5/12~6/17 (27)	600	室町時代の崩廻の出土部分を満査。	
富沢1号道路	寒河江市大字清野新田字富沢	一般国道112号白岩ハイパス改築工事	11/24~12/10 (13)	600	1次調査のみ大部分が平成6年度。	
小計				3,040		
◆道公園						
仲台道路	朝日村大字照叶字仲台	東北横断自動車道酒田線建設工事	5/12~10/25 (108)	4,750	绳文時代後期、弥生期の集落跡の一部を検出。	
栗山道路	朝日村大字照叶栗山	*		5/12~7/14 (46)	4,725	绳文時代中期の住跡跡3種検出。
細川中野道路	鶴岡市大字大庭川字細川中野	*		5/12~11/19 (125)	14,000	県内で最も少ない古墳時代前後の集落跡検出。
脚立1号道路	鶴岡市大字西原字脚立	*		7/19~9/29 (43)	3,200	室町時代の環濠から完全な形のカヌが出土。
小計				27,279		
合計				96,443		
平成5年度埋蔵文化財センター発掘調査実績						
遺跡名	所在地	調査原因	調査期間(日数)	調査面積㎡	調査成果	
◆椎林						
大坪道路	道佐町大字野沢字大坪	昭和宮は整備事業(月光川下流域)	5/9~9/7 (82)	11,200	平安時代9、10世紀の集落。旧河川跡。木簡出土。	
北日田道路	道佐町大字北日田長田	* (高齢地帯)	5/10~7/8 (44)	3,200	平安時代前跡。土坑跡。建物跡を検出。	
待合道路	道佐町大字北日田宿待	*		6/22~6/28 (5)	1,000	
草田道路	道佐町大字北日田字草田	*		5/11~7/15 (45)	3,800	平安時代建物。倉庫跡。井干彌を検出。
上高野道路	道佐町大字高野字上高野	(月光川下流域)	7/11~9/8 (38)	3,000	平安時代の崩廻の出土部分を満査。	
木ノ下道路	道佐町大字木ノ下木ノ下	*		7/19~7/29 (7)	1,000	
西谷地道路	道佐町大字下宇西谷地	*		5/9~8/31 (77)	7,950	平安時代の掘立柱建物跡検出。溝路跡多数出土。
西ノ川道路	鶴岡市大字下宇谷字地	*		5/9~7/27 (57)	4,800	平安時代後世の生活跡検出。小泊治生が作られたか。
小計				36,550		
◆畠上土						
通り屋道路	白鷹町大字菱畠甲字通り屋	国道26号道路改良工事(畔番地)	7/25~10/14 (51)	2,600	古墳時代前期を中心として多数の住跡跡検出。	
小計				2,600		
◆畠数委						
鬼ヶ島城跡	酒田市鬼ヶ島1丁目	私立高校校舎等整備事業(美背室)	6/21~8/12 (38)	600	古世の城跡跡内跡検出。陶磁器 稲など出土。	
小計				600		
◆建設省						
富沢1号道路	寒河江市大字清野新田字富沢	国道112号白岩ハイパス改築工事	6/22~10/7 (66)	3,500	绳文時代後期初めの集落。竪穴等多数検出。	
小計				3,500		
◆道公園						
野新田道路	朝日村大字の野新田字表	東北横断自動車道(朝日~西川町)建設工事	5/10~11/8 (11)	11,850	绳文時代中期の大規模な集落跡5種の建物跡を検出。	
櫛ノ瀬道路	鶴岡市大字櫛ノ瀬	*		5/9~9/14 (87)	8,400	縄文時代の植物跡 密集した井干彌を検出。
後田道路	鶴岡市寺田字後田	*		5/9~9/7 (63)	14,500	古墳時代から中世にかけての集落跡を検出。草塔婆多数出土。
大道下道路	鶴岡市寺田字大道下	*		5/9~6/10 (20)	5,000	
小計				39,750		
◆道公園						
横越道路	西川町大字木内横越	東北横断自動車道(東北~西川町)建設工事	6/6~7/21 (34)	750	中世~近世礎石建物跡検出。柴脇道場のお堂跡。	
木ノ瀬道路	西川町大字木ノ瀬字瀬	*		7/14~10/28 (66)	3,462	人工的な手作業検出。山面に曲輪 宮室 王室あり。
山居道路	西川町大字木ノ瀬字山居	*		5/12~11/30 (132)	5,500	绳文時代後期溝路跡 梱石が多数検出。大量の石器製作作業場か。
高瀬山道路	寒河江市大字高瀬山字高瀬山	*		5/11~12/9 (137)	19,040	奈良・平安時代の集落跡。堅穴建物跡74種検出。
予留糞跡	寒河江市・西川町	*		9/26~12/2 (44)	9,365	
小計				38,117		
◆墓						
酒井道路	高岡町大字泉町字中道	高岡警察官派出所新築工事	9/19~10/14 (15)	1,200	平安時代の溝路跡。井干彌を検出。9世紀前半の土器出土。	
小計				1,200		
合計				122,317		



平成5年度 宮の前遺跡

宮の前遺跡は、山形県の中央よりやや北側の村山市富並地区にある縄紋時代のムラの跡です。この遺跡のある土地にはいまから約1万年前の縄紋時代草創期にはじめて人々がすみはじめ、その後約8千年間にわたって人々が住んでいた大きな遺跡であることがわかりました。このムラが最も栄えたのは縄紋時代後期～晩期の約2千年の間で、その当時の人々の生活の様子を知ることの出来る様々な遺構や遺物が発見されました。

注目されるものとして、縄紋時代の住居跡・土坑・墓坑・土器捨場などの遺構があります。縄紋時代晩期のSK138墓坑からはヒスイと石斧が死者の枕元に添えられたような状態で発見されました。縄紋時代の人々も私達と同じように死者を悼んだことがわかります。土器捨場からは1.4m³ほどの捨てられた土器の層が発見されました。恐らくここには何万点という土器が捨てられているものと思われます。

土器や石器など遺物からもいろいろなことがわかりました。関東地方から運ばれた『安行2式』といわれる土器や、新潟県から運ばれたヒスイの装飾品などは、当時であっても活発な交易が行われていたことを教えてくれます。また、人面付土器は人の顔を土器に飾った特殊な土器ですが、発見例は全国的に見ても少なく、当時の精神生活を垣間見ることのできる貴重な遺物です。(山口博之)



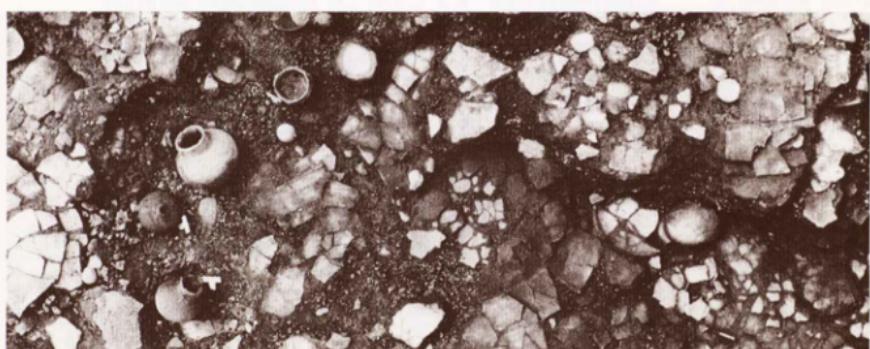
遺跡遠景



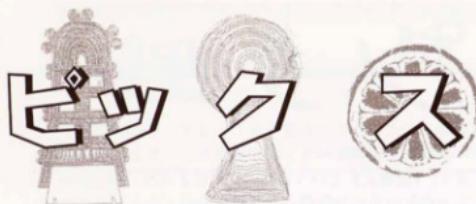
人面付土器



香炉型土器



土器捨場



平成6年度 山居遺跡

山居遺跡は、西川町をへて庄内へとつながる国道112号沿いの、西川町役場から北西に約4km、水沢川左岸の小高い丘に位置しています。

この遺跡は、今から約4,500年前の縄文時代のムラの跡です。今回の調査では、昔の人が住んでいた家の跡や倉庫の跡、食べ物を保存したり、ゴミを捨てたりする穴跡、柱を建てていた穴跡などが見つかりました。見つかった家の跡の多くに、土器を埋め、回りを石で囲ったU字型の炉の跡がありました。これは、手前に石で囲った部分と、奥に土器を埋めて作った複数の炉

で構成されることにより、複式炉と呼ばれています。現在のいおりに近い、暖房や調理場の役割を持っていたと考えられています。

また、今の皿や鍋のように盛り付けや、煮たり炊いたりに使用した縄目の様々な紋様や粘土の飾りを付けて大小の縄文土器。動物を狩ったり、木を切り加工したりする、石で作った弓矢の先に付ける石鏃や石槍、石斧やノミ等も見つかりました。ほかにお祈りに使用する人の形をした土偶と石棒や、大きさ5cm程度の小さなミニチュア土器も見つかっています。(氏家信行)



住居跡と複式炉跡



土器の出土状況



土偶

大坪遺跡出土

木簡

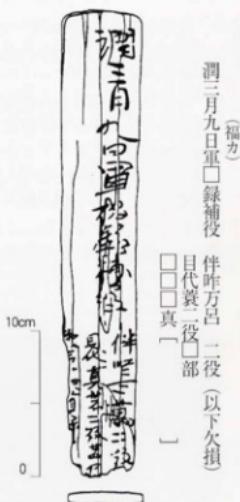
木簡とは木に墨書きされたものをいいます。これまでに県内では平安時代の木簡が数点出土しています。実際の生活や政治の場で使われ、歴史を研究するうえで貴重な資料となっています。遊佐町の大坪遺跡では中央部を蛇行する河川跡から木簡が出土しました。その木簡には毎月三月九日に軍□（渡来系の人物か）が伴昨万呂や目代真糸らの（甘葛煎=アマツラ）の収穫か甘味料の加工に関して果たすべき仕事（負担）の回数を

記録したということが書かれています。下の欠損部分には他にも負担すべき人名が記されていたと推測されます。『延喜式』という当時の書物によれば、出羽国からは毎年中央へ甘味料の甘葛煎を納めており、それを裏付ける木簡と考えられます。年号がありませんが、一緒に出土した土器から9世紀後半と考えられます。

(斎藤俊一)



木簡出土状況



声の交差点

土器の実測作業をしていて土器を作った人の指の痕を見つけたりすると嬉しいになります。その人のことからその場の周りの様子へと、ひとりでに想像が膨らんでいきます。映像を見るようにいきいきと描けたらさぞ楽しいんだろうと思うのですが、残念ながら知識不足です。(整理作業員A.S.)

今年は二年目でした。先生や先輩方に教えていただいて数多くの実測ができ、大変勉強になりました。(整理作業員K.S.)

作業員として実際に土器に接してからは、新聞やTVのニュースで文化財や発掘の事などにいち早く目がとまるようになりました。子供たちを連れ美術館や資料館を回る機会も増え、共通の話題ができるて楽しんでいます。(整理作業員Y.S. S.G.)

編集後記

センターが設立されてから早、2年が過ぎようとしています。センターの活動をいち早くお知らせしようと計画した広報誌の発刊が、ようやく実現できました。これまで試行錯誤を重ねながら創刊号を刊行できたことは、報告書作成時期にもかかわらず、快く原稿の執筆を快諾して戴いた各調査担当者や、センターの皆様のおかげと感謝しています。創刊号ではセンター設立の経緯と平成5・6年度の活動内容を主に紹介しました。今後とも埋蔵文化財の保護と普及啓発を目標として分かりやすい広報誌を皆様にお届けしたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。(野尻)